

ノウフク・アワード2022応募用紙(記入例)

【特例子会社、企業等が実施主体】

1 応募者の概要

運営主体(企業・団体・法人名等)	かぶしきがいしゃ のうりん 株式会社 農林
事業所名	かぶしきがいしゃノウフクファーム 株式会社ノウフクファーム
代表者名	(ふりがな) のうふく たろう 氏名 農福 太郎 (役職: 代表取締役)
所在地・連絡先・担当者名等	住所 〒〇〇〇-△△△△ 〇〇県△△市□□町××-××
	電話番号: FAX 番号:
	メールアドレス:
	ホームページ(URL)
	担当者名: 農林 福太郎 (役職: 農業指導員)
法人等の種類	<input type="checkbox"/> 農業法人 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input checked="" type="checkbox"/> 株式会社 <input type="checkbox"/> 特例有限会社 <input type="checkbox"/> 合同会社 <input type="checkbox"/> その他()
取組主体	<input type="checkbox"/> 農林漁業経営体 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input checked="" type="checkbox"/> 特例子会社 <input type="checkbox"/> JA 等組合 <input type="checkbox"/> 生協 <input type="checkbox"/> 地方自治体 <input type="checkbox"/> その他()
障害者等の就労等の形態	<input type="checkbox"/> 農林漁業経営体等に雇用 <input type="checkbox"/> 障害福祉サービス事業所に就労 <input checked="" type="checkbox"/> 特例子会社に雇用 <input type="checkbox"/> 農林漁業経営体等に施設外就労 <input type="checkbox"/> その他()
設立年月日	(西暦) 2015年4月 (設立 8年目)
農福連携開始年月日	(西暦) 2015年4月 (開始 8年目)
取り組んでいる事業	<input checked="" type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 林業 <input type="checkbox"/> 水産業 <input type="checkbox"/> 加工業 <input type="checkbox"/> その他()
組織の変遷	2015年4月 農業開始
福祉サービス	<input checked="" type="checkbox"/> A型事業所 <input type="checkbox"/> B型事業所 <input type="checkbox"/> 生活介護 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 該当なし
連携企業、事業所名等(福祉サービス)	※グループ内連携の場合は連携企業名等を記載
	<input type="checkbox"/> A型事業所 <input checked="" type="checkbox"/> B型事業所 <input type="checkbox"/> 生活介護 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 該当なし
農福連携の体系図	親会社→(意思決定機関の支配・役員派遣等)→特例子会社農林(直接雇用)
障害者数等	雇用者数又は利用者数: 11人 うち農業等に関わっている人数: 11人
取得済みの資格等	<input type="checkbox"/> 認定農業者 <input type="checkbox"/> 6次産業化認定事業者 <input type="checkbox"/> GGAP <input type="checkbox"/> JGAP <input type="checkbox"/> その他の GAP <input type="checkbox"/> 有機 JAS <input checked="" type="checkbox"/> ノウフク JAS <input type="checkbox"/> エコファーマー <input type="checkbox"/> その他()

2. 取組の背景(きっかけ)・目的(必須) ※400文字以内で箇条書きにて記入してください。

- ◆ 本社の法定雇用率を達成するため、特例子会社制度を活用して、障害者に適した仕事ができる事業を模索していたところ、農政局が開催する農福連携セミナーで、特例子会社が農業を実施している事例が紹介され、本社に特例子会社制度を活用して農業を行うことを提案したところ、承認され、農業を行うこととなった。
- ◆ 障害者には農業は難しいと考えていたが、実際に農業に取り組んでいる特例子会社を視察する中で、障害を持っている人たちが生き生きと働いているのを見て、法定雇用率の達成だけでなく、我々が農業に取組み、障害者が生きがいと働きがいもってもらえるのであれば、企業としても社会貢献にもつながると考え、取組を開始した。

3. 取組の体制、具体的内容【農福連携の取組みだけでなく、農福連携を通じた様々な活動(直売所、レストラン、観光農園等の開設、地域イベントへの参加等、他企業等との連携についても記載してください)】(必須)

※1200文字以内で箇条書きにて記入してください。

- ◆ 現在は、11名の障害者を雇用し、職員3名で農業に取り組んでいる。障害者のうち1名は身体障害者で、主に経理や庶務を担当してもらっている。
- ◆ 農業を始めるにあたり、職員3名が農家で研修を行い技術を習得したほか、農業開始後も近隣の農業をリタイアされた高齢の農業者から定期的に職員や障害者に技術指導を受けている。
- ◆ 特例子会社では、障害者が一年を通じて働ける環境を整えるため、植物工場や施設園芸に取り組んでいるところが多いことを踏まえ、できれば地域の農家などとも何らかの連携ができればと考え、市街の農業地域で用地を探していたところ、市から紹介があり、荒廃農地を活用して農業を行うこととした。
- ◆ 施設は農業ハウス4棟、約50aの面積で、養液土耕栽培でトマトを栽培しており、品種を変えることで1年を通じて収穫が得られており、障害者の安定就労につなげている。
- ◆ 収穫したトマトは、系列のスーパーに出荷しているほか、近隣のレストランや直売所にも出荷しており、講評を得ている。
- ◆ 地域のイベントにも積極的に参加するようにしており、産直祭りなどには出店し、トマトの販売を行っている。
- ◆ 近隣の小学校や特別支援学校とも連携して、トマトの収穫体験を行い、地域に根差した取組を進めている。
- ◆ 市内の福祉事業所から収穫時期の忙しい時期には、農作業の手伝いに来てもらっている。

4. 取組実績(必須) ※農地面積、荒廃農地の解消、売上高、障害者等の工賃(賃金)、農作業に関わる障害者数、障害者に農作業を委託している経営体数、交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。

項目	単位	取組当初	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
障害者数	人	10	10	11	11	11	11
農地面積	a	40	40	50	50	50	50
農業ハウス	棟	3	3	4	4	4	4
障害者の月平均賃金	円		98,000	101,000	102,000	115,000	120,000
売上金額	万円	500	1500	3000	3200	3100	3500

5. 取組の工夫(必須) ※取組に当たって工夫されている点を400字以内で箇条書きにて記入してください

- ◆ 障害者の目線で農作業の見直しを行うとともに、障害者が作業しやすい環境整備を行っており、夏場はミスト装置を導入して、暑さ対策を行っている。
- ◆ 毎朝、農作業を行う前に朝礼を行い、当日の農作業を確認するほか、週の終わりには1週間の農作業の振り返りを行い、翌週の農作業につなげている。
- ◆ 年に数回、高齢のプロの農業者に来てもらい、農業指導を受け、スキルアップに取り組んでいる。
- ◆ 障害者のモチベーションアップのため、給与のほかに、頑張り度合いに応じて年2回賞与を出すほか、表彰制度も行い、障害者のやる気を出させている。

6. 取組の効果(必須) ※取り組んだことにより、①障害者等、②農林水産業、③地域に対してどのような効果を生み出しているかをそれぞれ400字以内で箇条書きにて記入してください。

① 障害者等(工賃や賃金の向上や障害者の自立、一般就労につながった事例、多様な人々が働くことができる職場環境の創出などについて記載してください)

- ◆ 障害の程度で1日あたりの勤務時間や週当たりの勤務日数が異なるが、県の最低賃金以上の支払いを行っているほか、頑張りに応じて賞与も年2回支給しており、障害者は年2回の賞与が嬉しくて、頑張って農作業に取り組んでいる。
- ◆ 障害者目線に立って、作業の見直しやほ場の安全管理等を行っており、障害者が働きやすい職場づくりを行っている。
- ◆ 障害者の適性を見極め、その人の能力に応じた作業を行わせている。
- ◆ 主任登用制を導入し、農業技術が向上し、作業を任せられる人には主任制を設け、主任として他の障害者を指導してもらっている。
- ◆ 地域内では障害者に対する理解が深まり、障害者も地域で自信をもって生きていけるようになりつつある。

② 農林水産業(取組を通じて荒廃農地等の減少、労働力の確保、経営の安定、生産性の向上や収益の向上等、地域の農林水産業の維持・発展等にどのような効果を及ぼしているかを記載してください)

- ◆ 我が社の取組みが地域内で認められることで、高齢の農家から農地を借りてほしいといった要望も寄せられており、今後は、露地栽培で、野菜の栽培を行うことを計画している。
- ◆ 近隣の福祉事業所に農作業委託し、収穫時期の忙しい時期には施設外就労で収穫作業を手伝ってもらっている。
- ◆ 直売所や産直祭りに当農場で生産されたトマトを販売することで、消費者等から美味しいとの評価を受け、直売所に出せば、午前中には売り切れるなど、直売所の売り上げに貢献している。
- ◆ 農地の継承者として地域農業の維持に貢献している。
- ◆ 小学校や特別支援学校に収穫体験を行うことで、地域内交流を進めている。

③ 地域(地域内外との交流、地域コミュニティの維持・再生、地域内連携による地域活性化等につながっている事例を記載してください)

- ◆ 当社の取組みが、県のローカルニュースと地方紙で取り上げられたことから、県内はもちろんのこと県外から視察に訪れる企業が増えている。
- ◆ 県や市町村主催の農福連携セミナーに講師として呼ばれる機会が増えた。
- ◆ 農業を始めたい企業からアドバイスを求められる機会が増え、新たな連携が生まれている
- ◆ トマトのブランド化や付加価値を高めるために2020年にノフクJASを取得し、現在、JGAPの取得にも取り組んでいる。

7. 取組内容がわかる写真等

※写真、図表等を貼付し、20文字以内で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず3枚以上貼付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。

8. 表彰等の受賞歴(該当があれば記入)

表彰名等(受賞年度)	主催者
2017年度 フード・アクション・ニッポン・アワード 2017 受賞	農林水産省

9. 取組に関する PR・エピソード(自由記入、写真、PR 動画^④等添付可)。1200 字以内

- ① 記入欄には指定された文字数の範囲内で記入してください(文字の大きさも、当初の設定から変更しないでください)。
- ② ノウフク・アワードは、農福連携の普及啓発を目的に、表彰された取組内容はもちろんのこと、優良な取組事例を全国へ発信することとしており、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及びノウフクポータルサイト(ノウフク Web)への掲載並びに地方公共団体への情報提供等(農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など)に使用することがございますので、あらかじめ御了承ください。(個人名については公表、使用はいたしません。)
- ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめ御了承ください。
- ④ 「9. 取組に関する PR・エピソード」に PR 動画を添付する場合は、動画共有サイト(YouTube / Vimeo 等)やクラウドストレージサービス(OneDrive / iCloud / Dropbox / Googleドライブ)等にアップロードの上、URL を記入してください。